

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
リトルグリーンバードとみしろ		2025年3月7日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	運営基準を満たしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	0	運営基準以上の職員を配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	絵カードを使用して手順を示すなど、児童に応じた伝達手段を考えています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	児童の活動状況を見ながら活動スペースを決め、安全面を配慮しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	かんしゃくやパニック時のクールダウンなど、必要に応じて静養室を利用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	日々の療育、個別支援計画の振り返りだけでなく、イベント終了後も全スタッフで振り返りをしています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	毎年実施している事業所評価の結果をスタッフ全員で共有し、改善に向けた取り組みを行っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	必要に応じて面談を行い、意見を把握しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		今年度は沖縄県の監査もなかったため、今年度は外部からの監査は受けていません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	法人内で毎月研修を実施しています。また、外部研修も積極的に受講しており、学びを水平展開しています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	リトルグリーンバードのホームページに公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	保護者、学校とも情報を共有し、ニーズや課題を定めています。スタッフ全員でアセスメントを行い、計画を立案しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	プラン作成時の検討会議以外にも、スタッフ全員で児童の様子、目指したい姿を話し合い、共通理解を図っています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	支援内容はスタッフ全員で共有するのはもちろんのこと、支援後の振り返りも共有しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	法人内でアセスメント一覧表を作成し、日々の行動観察時にも活かしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	本人支援、家族支援、移行支援を個別支援計画にも反映させ、具体的な支援方法を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	毎月児童の意見を聞く場（こどもミーティング）であがった意見を取り入れるなど、チームで協力しながら取り組んでいます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	活動のねらいを把握した上で、曜日固定など偏りが出ないように工夫しています。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	個別療育、集団療育それぞれのメリット・デメリットを意識し、適宜組み合わせています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	始業時のミーティングにて、その日の集団活動など療育のねらい、役割を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	勤務時間が異なっても情報共有ができるよう、こまめな報連相を意識し、ミーティングでは、前日の振り返りを必ず行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	個別支援記録や日報など、重要な点は記録に残し、スタッフで検証をしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	個別支援計画の支援期間を目安に、見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	自立支援活動、創作活動、地域交流、余暇の提供を組み合わせた支援を行っています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	たとえ望ましくない結果となってしまっても、自分で選択をしてみる場面を設定し、自己決定を促しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	担当制度を設けており、児童発達支援管理責任者以外にも参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	児童が通所している学校だけでなく、相談支援員や併用している他事業所の情報も共有しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	保護者だけでなく、送迎時に学校（担任など）とも情報共有を行い、調整を図っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	今年度は小学校に上がった児童はいなかったが、過去の事例では、対象児童がいた場合は連携を図る取り組みを実施しています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	5	放課後等デイサービスから障害福祉事業所へ移行したケースはないため、「いいえ」としました。	放課後等デイサービスから障害福祉事業所という流れに限らず、関係機関との連携は今後も継続していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	0	沖縄県発達障がい者支援センターがじゅまへる主催の研修に参加し、学びを療育に活かしています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	近隣の学童クラブと交流を図ったことがあります。地域のコミュニティセンターのイベントにも毎年参加しています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	0	豊見城市立自立支援協議会(かざぐるま会)に在籍しています。イベントでは実行委員も務め、積極的に参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	モニタリング会議の場だけでなく、日頃の情報共有を重視しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	大阪キリスト教短期大学との共催で、アスペルガー先生こと奥田健次先生の講演会(zoom中継)を行いました。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時に説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	ニーズに合った支援を提供するためにも、日頃の送迎時からニーズの把握に努めています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	顔を合わせながら説明を行い、支援の目標、その先のゴール（大きな目標）まで伝えていきます。同意も得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	保護者からの発信を待つのではなく、話の中から引き出すことを意識して支援にあたっています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	0	9月に家族会を開催しました。	きょうだい同士が交流できる場づくりは想定できていなかったため、実現に向けて検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	法人内で苦情管理責任者を交えた研修を定期的に実施しています。対応窓口を重要事項説明書に記載し、契約時にも説明しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	HUG（おたよりなどを配信しているシステム）を利用して、月に1回教室だよりやイベント情報を発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	個人情報を収集する目的をスタッフ全員理解した上で、慎重に取り扱っています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	HUG（おたよりなどを配信している電子システム）の画面が見えづらい方には紙面対応するなど、個々に応じて配慮をしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	夏祭りイベントを開催した際に、近隣の学童クラブを招待しました。ボランティアや実習生も積極的に受入れています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	法人内でマニュアルを策定しています。非常時を想定した訓練を集団活動の一つとして、定期的に実施しております。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	研修で得た知識、訓練での気づきをまとめ、BCPの見直しを行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	服薬状況や既往歴を事前に確認しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	保護者から対応方法を聞き取り、対応しています。エピペンの使用方法について医師による研修も行いました。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	安全管理に必要な研修や訓練を実施しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	災害時に想定される避難先を文書や家族会の場で共有しました。避難訓練の様子は、おたよりでも配信しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	法人内で毎月ヒヤリハット報告書を共有し、事故の予防に役立てています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	法人内で虐待防止委員会を設立し、スタッフ研修も行いました。今年度も外部研修を受講予定です。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	身体拘束はしないという法人の理念をスタッフを間で共有しています。	身体拘束はしないという方針もあり、個別支援計画書への記載が課題です。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		リトルグリーンバードとみしろ		公表日		2025年3月7日					
				利用児童数		11		回収数		11	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	3	0	0	もう少し広さがあると、より活動が豊かになると思いますが、整っていて今のスペースを最大限活用していると思います。	運営基準を満たした広さを確保しています。戸外活動も取り入れ、身体を思いきり動かすことで身体の発達を促すことを心がけています。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	10	1	0	0		運営基準以上の職員を配置しています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	0	0	0		絵カードを使用して手順を示すなど、児童に応じた伝達手段を考えています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	0	0	1		児童の活動状況を見ながら活動スペースを決め、安全面を配慮しています。5S活動も取り入れ、快適な空間づくりを実践しています。			
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	1	0	0		保育士、社会福祉士、教員免許といったそれぞれの資格、スキルを活かした療育を実践しています。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	1	0	0		リトルグリーンバードのホームページに公表しています。日頃の支援内容と結びつけた内容となっています。			
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10	0	0	1		児童・保護者の意向を伺い、児童の置かれた生活背景も踏まえた分析を行い、目標を定めています。			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	2	0	0		本人支援、家族支援、移行支援を個別支援計画にも反映させ、具体的な支援方法を設定しています。			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	1	0	0		個別支援計画に沿って、児童の特性や課題に応じた支援を提供しています。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	0	0	0					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	2	1	0		近隣の学童クラブと交流を図ったことがあります。地域のコミュニティセンターのイベントにも毎年参加しています。			
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	0	0	0					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	0	0	0					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	2	0	1		大阪キリスト教短期大学との共催で、アスベルガー先生こと奥田健次先生の講演会(zoom中継)を行いました。今後は、地域のセ講演会、セミナーなどの案内にも力を入れていきます。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10	1	0	0		モニタリング会議の場だけでなく、日頃の情報共有を重視しています。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1	0	0		いつでも相談を受け入れています。保護者からの発信を待つのではなく、話の中から引き出すことを意識して支援にあたっています。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	0	0	0					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	3	0	2		家族会は9月に開催しました。今後も定期的に開催してまいります。きょうだい同士が交流できる場づくりは想定できていなかったため、実現に向けて検討していきます。			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	1	0	1		保護者からの発信を待つのではなく、話の中から引き出すことを意識して支援にあたっています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	1	0	1		HUG（おたよりなどを配信している電子システム）の画面が見えづらい方には紙面対応するなど、個々に応じて配慮をしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	2	0	0		個人情報を収集する目的をスタッフ全員理解した上で、慎重に取り扱っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	1	0	0		法人内でマニュアルを策定しています。非常時を想定した訓練を集団活動の一つとして、定期的の実施しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	1	0	0		教室内ハザードマップを作成し、リスクを可視化することで、児童の安全確保に努めています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	2	0	1		ケガがあった際は、速やかに報告しています。ケガが起こった際の報告、原因分析、改善に向けたフローも確立されています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11	0	0	0		子どもたちの安全基地となり、安心してリトルグリーンボードへ通所ができるよう、今後も努力してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	0	1		室内活動の充実はもちろんのこと、地域散策や自然とのふれあいといった体験を取り入れ、興味関心を引き出していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	0	0	0		現状に満足せず、よりより療育の提供を心がけてまいります。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルグリーンバードとみしろ		
○保護者評価実施期間	2025年1月22日 ～ 2025年2月21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○従業者評価実施期間	2025年1月22日 ～ 2025年2月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ 戸外活動が充実している	・ 戸外活動がの内容が固定化しないようアンテナを張り、地域のイベント情報などを収集している。 ・ 児童の意見を取り入れることもミーティングを毎月実施し、要望を形にしている。 ・ 公園活動などを積極的に取り入れ、思い切り身体を動かしたいという児童のニーズを汲み取っている。	・ 今までやったことのない取り組み（お泊り会など）を計画し、実行するために話し合いを行っている。
2	・ AIカメラ記録データを利用した質の評価	・ AIカメラ記録データを利用したスタッフ・児童の行動量を可視化し、療育の質を評価している。	・ 動画を見て言動を振り返る時間を定期的に設け、児童が客観的に自分を見つめ直す機会を作っていく。 ・ スタッフの言動の振り返りだけでなく、児童の行動を児童と一緒に振り返る機会を増やすことで、療育の質を深めたい。
3	・ 学習机を用意している。	・ 色々な高さの机やイスを用意することで、児童が一番ベストな机で学習できる機会を提供できている。 ・ 小学校、中学校と似た学習環境をつくることで、アセスメントに活かしている。	・ 破損等がないかを確認しながら、常に使用できるように努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ スペースが狭い。	・ 法令で定められた基準の面積となっているが、運動メインの他事業所などと比較すると物足りなさを感じる。	・ 戸外活動を多く取り入れることで、児童が思い切り身体を動かすことができる機会をつくる。
2	・ 家族支援プログラムの提供や家族等も参加できる研修の案内が弱い。	・ スタッフ向けの研修の情報は積極的にキャッチし、参加できていた。しかし、保護者向けという考えは抜けており、情報をキャッチしようとする姿勢も弱かった。	・ 今後は、保護者向けの研修やセミナーの情報収集に力を入れ、HUGなどで発信していく。
3	・ きょうだい児の支援	・ 家族支援として家族会は実施できたが、きょうだい児を対象とした支援まで考えが至っていなかった。	・ 今後もきょうだい児に関する相談を継続していくが、その他にできることはないか考えていく。